

第1学年 道徳科指導案

日時 令和3年9月4日(土)
子ども 1年

I 主題名・内容項目・教材名

<授業の見どころ>

主題名 しんせつに すると 気持ちがいい
内容項目 親切, 思いやり
教材名 はしの上のおおかみ
(新・みんなのどうとく1年「学研教育みらい」令和3年度版)

子どもたちが、おおかみの心情の変化を考慮することを通して、親切にすることのよさとは何かを話し合っていきます。

II 主題の指導構想

1 主題について

- 1学期を終えた子どもたちは、小学校生活や友達関係にも慣れ初め、伸び伸びと活発に行動するようになってきた。また、保育園や幼稚園が異なる友達同士でもかかわる姿が見られ、交友関係にも広がりが見えてきた。発達的特質から他者とかがかわる中で、自分中心の考え方をすることが多く、相手の状況や立場から自分がやりたいことを通し、自分のしたいことをしたり、したいことを優先するあまりけんかをしたりすることがある。

そこで、友達とのかかわり合いに広がりや深まりが出始めるこの時期に、相手の思いや状況を感じ取り、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深められるようにしていきたい。また、その結果として相手の立場になって考え、優しくしたり親切にしたりすることが、相手を心地よい気持ちにするだけでなく、自分にとっても喜びとなることに気付かせ、身近な人たちに思いやりをもって接していこうとする態度を育てていきたい。

- 学習指導要領に示されている内容項目「B7 親切, 思いやり」の低学年の内容は、「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること」となっている。

本主題は、親切にした時の気持ちよさを知り、誰に対しても思いやりの心をもって生活を送ることに関するものである。親切, 思いやりは、自分の思い込みや自己満足のためではなく、相手の立場に立ってその心情を思い、自分のこととして受け止めることが大切である。学校、学級での生活が身に付いてきたこの時期に、相手のことを考える温かい気持ちや親切な行為について考えられるようにしたい。

今回の親切, 思いやりについて低学年として特に重点に挙げられるのは、「身近な人に温かい心で接し、親切にすること」と「相手の喜びが自分の喜びになること」の2点であると考えられる。

よい人間関係を築くには、相手に対する思いやりが不可欠である。思いやりとは、相手の立場を押し量り、自分の思いを相手に向けることである。そして、それは具体的には温かく見守り、接することや、相手の立場に立った励ましや援助などを含む親切な行為などとして表れることである。自分の気分や都合で態度を変えるのではなく、本当に相手のことを考え、その立場に立った励ましや手助けができる児童の育成をねらいとしていきたい。

また、思いやりの心はもっているが、なかなか親切な行動まで至らない場合もある。相手のことを考えたときにより行動であると分かっているが、なかなか行動に移せない状況の時に自分を押し進めるものは、やはり相手の立場や状況を想像することであると考えられる。「相手のことをどれほど考えることができたか」「相手にとってどのような行動をされるとうれしく感じるのか」などを深く考えることで、自分のした行為に自信をもてるようになる。相手の喜びが自分の考えや行動を肯定的に認める要因となり、その思いが繰り返されることで、相手の喜びを自分のこととして受け入れられるようになり、親切な行動ができるようになってくる。自分の事だけを考えるのではなく、どのように周りの人と関わり、判断することが相手のため、ひいては自分のためになるのかを考えた学習にしていきたい。

- 本教材は、自分より小さい動物たちに意地悪をして面白がっていたおおかみが、強くて大きなくまに親切にされたことで、親切にされることや親切にすることの素晴らしさに気づき、自分自身を振り返り、その後、自分より小さな動物たちに優しく接するおおかみへと変わっていく内容である。意地悪をしていたおおかみの心の変容が、よくわかる教材であり、おおかみの気持ちの変化を通して、温かい心で人に親切にすることの気持ちのよさ、大切さを感じることができる教材である。

2 学びの文脈に基づいた指導の構想図

B 主として人との関わりに関すること 7 親切, 思いやり

身近にいる人に温かい心で接し, 親切にすること。

道徳性の諸様相

道徳的判断力	道徳的心情	道徳的実践意欲と態度
身近にいる人に温かい心でかかわり, 親切な行為をしていこうとする判断力を育てる。	他の人に対して, 温かい心でかかわることの大切さを考えながら, 親切にしようとする心情を育てる。	身近にいる様々な人々との触れ合いの中で, 相手のことを考え, 親切な行為をしようとする態度を養う。

<目指す子ども像>

- ・身近な人に対して, 温かい心でかかわり, 親切な行為をしていこうとする子ども。
- ・相手の喜びを自分の喜びとして受け入れ, 次への実践につなげていく子ども。

復興教育との関連

- かかわる「⑧ 家族のきずな」「⑨ 仲間とのきずな」「⑩ 地域とのつながり」
- 生活していく上で, 身近な人に対して, 温かい心でかかわり, 親切な行為をしていこうとする態度を養う。

他教科・領域等

- 教科 生活「ちいきのみんなとなかよし大作戦」(10月)
- ・地域に関心をもち, 地域の一員として, かかわったり, 協力したりしようとする心情を育む。
- 行事「全校音楽集会」(11月)
- ・体や声で表現することを通して, 自他のよさに気づき, 互いに認め合いながら生活していこうとする態度を養う。

「道徳的判断力」(5月)

教材名「はやとのゴール」

相手のことを考えて優しく接することの大切さに気づき, 親切な行為をしていこうとする判断力を育てる。

「道徳的実践意欲と態度」(9月)

教材名「はしの上のおおかみ」

親切にすることは, 自分だけでなく, 相手も優しい気持ちになることに気づき, 誰に対しても思いやりの心をもって接しようとする態度を養う。

「道徳的心情」(2月)

教材名「ひろがるえがお」(ふるさと いわたの心)

困っている人に対して, 自分には何ができるか考え, 温かい心でかかわろうとする心情を育てる。

他教科・領域等

- 行事 「スポーツフェスタ」(5月)
- ・学団が一丸となって協力し合い, それぞれの立場を理解し, 行動していこうとする心情を育てる。
- 課外 縦割り班掃除・異年齢活動(なかよしデー)
- ・異年齢が集う活動で, 相手の立場を考え, 思いやりの心もち, 親切な行動をしていこうとする意欲を育てる。

感じ方・考え方を働かせるポイント

- 「親切, 思いやり」に関わる多面的・多角的な考え方
身近な人とのかかわりから, 相手の考えや気持ちに気づき, 温かい心で接し, 親切にすることの大切さについて多面的・多角的に考える。
- 「親切, 思いやり」に関わる自分の生き方を考え, 深める。
「親切, 思いやり」について自分の考えをまとめ, 自分を振り返り, 生活を見直すこと。

願い

- ・ みんなと仲よくしたい。
- ・ 困っている人がいたら助けたい。
- ・ いろいろな人とかかわりたい。
- ・ 困っている人が喜んでほしい。

教科の力

- 道徳の授業に意欲的に取り組んでいる子どもが多い。
- 自分の考えや経験を話そうとする子どもが多い。
- ▲ 自分の考えをまとめることができず, 相手に伝わりづらい。
- ▲ 理想を高くもっているため, 人間の弱さを表出する子どもが少ない。

子どもの実態

3 本時の指導構想

- 児童はこれまで、家族だけでなく、学校の先生や友達、上級生や地域の人々とのかかわりを通して、相手の気持ちを考えたり、自分だったらどうされることがうれしいのか想像したりして、他者と共に生活してきた。道徳の授業では、相手の気持ちや立場を自分の事と捉えて考えたり、相手の気持ちを想像することを通して、どうしたらよいのか話し合ったりする学習をしてきた。

それを生かし、「B 主として人との関わりに関すること 7 親切、思いやり」では、身近な人に対して、温かい心で接し、親切にすることは大切なことであることや相手の喜びを自分の喜びとして受け入れることで、よりよい生き方を目指すことができることにつながっていくことを理解させていく。

相手の事を考えずに、自分の事ばかりを考えたり、自分の思いだけを主張したりする弱い心と向き合いながら、正しい考え方や行動は一体何なのか考え、表現する授業を展開していく。

- 指導に当たっては、次の二点に留意する。

多様な考えに触れながら、自分の考えを明確にする話し合い活動【手立て1】

① 多様な感じ方・考え方を働かせながら自分の考えを広げるための発問

まずは、教材への導入についてである。今までの経験や体験を想起させたり、既存の価値意識を表出させたりしながら、今回の主題である「親切、思いやり」について、価値への方向性を高めていく。また、子ども達がおおかみの気持ちに自我関与しやすいよう、話に合わせて登場人物の挿絵や言葉を提示し、子ども達と教材をつないでいく。

次に、【えらぶ】を基にした、言語活動についてである。今回は、主人公であるおおかみの気持ちや行動に主眼を置きながら、役割演技でその時に感じた気持ちを発言させていく。くまと出会う前のおおかみの気持ちとくまと出会った後のおおかみの気持ちを比較することで、「相手のことをどう考えているのか」「親切な行為をされるとどんな気持ちになるのか」を考えることができるようにしていく。

自分の考えを明確にもたせ、多様な意見を出させることで、おおかみの気持ちを想像させたり、温かい心で接し、親切な行為をすることでどのようなよさがあるのか話し合わせたりし、ねらいに迫ることができるようにしていく。

② 多様な考えからねらいにせまるための話し合いの組織化

本時のねらいに迫るために、「うさぎをおろした後、おおかみはどんな気持ちになったでしょう」と発問し、親切にすることで自分の気持ちが温かくなることやうさぎの喜びが自分の喜びに返って行くことに気付かせていく。また、おおかみが他の動物にしてきたことを思い出しながら、自分より体の大きいくまにしてもらった行為こそ、相手のことを考えた親切な行動であるということを出させていく。

「うさぎは、おおかみのことをどう思ったかな」と補助発問を投げたり、くまと出会う前後の「えへん。へん。」という言葉の意味の違いに気付かせたりして、本時のねらいに迫っていく。この時に、同じ考えであることや違う考えであることに気付かせながら話させていく。そのために、「〇〇さんと同じような考えの人はいますか」「〇〇さんとは、違う考えの人はいますか」など、話し合いの方向性を明確にしながら展開していく。その際、子どもたちが話し合いのよりどころとなるよう板書も視点に沿ってまとめていく。

全校研究とのかかわり「えらぶ」

よりよい生き方を目指した問題場面での話し合い活動【手立て2】

学んだことを生かし、【つかう】を基にした未来志向の展開をしていく。できなかった自分に焦点を当てるのではなく、できるようにになりたい自分に焦点を当てることで、これからの生活を意欲的なものにしていく。その際、「〇〇さんの話を聞いて、これからどんな生活をしていきたいと思えますか」と、自分の気持ちを問う発問を投じることで、自分の心と向き合わせていく。他の児童の発言をもとにしながら、考えをつないだり、深めたりすることで、相手のことを考えてその立場に立った励ましや手助けが自分への喜びにつながってくることに気付かせていく。

全校研究とのかかわり「つかう」

- 学んだことは、今後、多様な人々と出会ったり、様々な状況に遭遇したりする場面などで、発揮され、快適な毎日を送ることができるようになる。さらに、そのような状況や考え方を繰り返し、経験することで、相手を思いやり、親切な行為をすることが日常的に行うことができると考える。

III 本時の指導

1 ねらい

- 親切にすることは、自分だけでなく、相手も優しい気持ちになることに気づき、身近な人に対して思いやりの心をもって接しようとする態度を養う。

2 見取りの視点

- ① 親切にすることは、自分だけでなく相手も優しい気持ちになることを様々な視点で考えていたか。【発言】

- ② 身近な人に対して、おもいやりの心をもって接することについて、自分自身とのかかわりで考えることができたか。【発言】

<特に個に応じた支援が必要な児童への手立て>

意図的に役割演技をさせ、その時の発言や行動を授業の柱としていく。おおかみに自我関与させることで、自分の考えを表出させるようにする。

3 展開の概要

段階	時間	学習活動と主な発問	予想される児童の発言や心の動き	研究にかかわる手立て(◆)	指導上の留意点(・)【評価】
問題の把握	5	1 教材への関心をもつ。 <input type="checkbox"/> どんな、おおかみにみえますか。	<ul style="list-style-type: none"> 強そうなおおかみに見えます。 いじわるなおおかみに見えます。 優しいおおかみに見えます。 いばっているおおかみに見えます。 		<ul style="list-style-type: none"> おおかみのイラストから、イメージを出し合い、教材へ関心をもたせる。
	5	2 教材を読んで感想を発表し、話合いの方向をつかむ。 <input type="checkbox"/> おおかみのことをどう思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> とおせんぼしていて、よくないと思う。 いろんな動物にいばっていてよくないと思う。 くまと会って、優しくなったからえらいと思う。 		<ul style="list-style-type: none"> 挿絵を用いながら場面状況を把握させ、整理する。 くまと出会う前のおおかみの顔と出会った後のおおかみの顔を対比させ、どうして表情が変わったのかを引き合いに出しながら本時のねらいとする価値について話合うことを捉える。
問題の分析・追求	6	3 とおせんぼするおおかみの気持ちについて話し合う。 <input type="checkbox"/> とおせんぼしている時、おおかみはどんな気持ちだったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> みんなこわがっていて、おもしろいな。 もっと、とおせんぼするぞ。 おれが一番強いんだ。 他の動物も来ないかな。 		<ul style="list-style-type: none"> 周りのことを考えず、自分の事ばかりを考えてしまった心の弱さに気付かせる。
	10	4 くまと出会った後のおおかみの気持ちについて話し合う。 <input type="checkbox"/> くまにだき上げられた時、どんな気持ちになったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> おれより大きいのに通してくれたぞ。 くまは優しいな。 自分にはできなかったな。 いばっていたらだめなのかな。 	◆ <手立て1> 多様な考えに触れながら、自分の考えを明確にする話合い活動 ① 多様な感じ方・考え方を働かせながら自分の考えを広げるための発問	<ul style="list-style-type: none"> 動物たちの体の大きさの違いに着目させ、他の動物と出会った時の気持ちとくまと出会った時の気持ちの違いを把握させながら、おおかみの気持ちに共感することができるようにする。 おおかみの気持ちを感じ取ることができるように、代表児童が演じている時には、見ている児童もおおかみになったつもりで演技を見ることができるよう声かけする。
価値の感得・理解	8	5 うさぎに優しくしたおおかみの気持ちについて話し合う。 <input type="checkbox"/> おおかみは、どんな気持ちでくまの後ろ姿を見ていたのでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> どうして、くまは威張らないのかな。 なんだか、うれしい気持ちになってきたぞ。 他の動物に悪いことをしたな。 おれもくまさんのようになりたいな。 おれも優しくしようかな。 	② 多様な考えからねらいに迫るための話合いの組織化 <ul style="list-style-type: none"> うさぎをおろした後のおおかみの気持ちについて、子どもたちの考えを以下の点でまとめ、話合いを構成していく。 <ol style="list-style-type: none"> ① おおかみ自身の気持ち ② くまへの気持ち ③ 周りの動物への気持ち →【えらぶ】 	<ul style="list-style-type: none"> おおかみとくまの行動の違いが明確になっていない場合には、「おおかみとくまには、どんな違いがありますか」と問い返し、誰にでも優しくするくまの行動の価値高さを捉えることができるようにする。 威張っていた時の「えへん、へん」とうさぎをおろした後の「えへん、へん」の違いに着目させることで、相手の喜びが自分の喜びにもつながってくることを捉えることができるようにする。 うさぎの気持ちを考えることを通して、自分本位の親切ではないことに気付かせる。 【見取り】発言内容 親切にすることは、自分だけでなく相手も優しい気持ちになることを様々な視点で考えていたか。
	10	5 学んだことをもとに、自己を見つめ直す。 <input type="checkbox"/> 「しんせつ」にしてよかったと思ったことにどんなことがありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ものを拾ってあげた。 たくさん荷物を持っている人を手伝ってあげた。 けがをしている人を見つけて、優しく声をかけてあげた。 しんせつしたら、相手がよろこんでくれて、自分もうれしくなった。 	◆ <手立て2> よりよい生き方を目指した問題場面での話合い活動	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活を想起させ、これからの生活をどのようにしていくか考えをもたせることで、実践へつなげることができるようにさせる。 【見取り】発言内容 誰に対してもおもしろい心をもって接することについて、自分自身とのかかわりで考えることができたか。
価値の主体化	1	6 教師の説話を聞く。	<p>うさぎをおろしたおおかみは、どんなきもちになったのでしょうか。</p>	→【つかう】	

